

抗血栓性に優れた PMMA 膜ダイアライザーNF-H による残血、掻痒感改善の検討

医療法人社団三思会 東邦病院

○松本 理恵 (マツモト リエ)、松村 昌樹、吉田 弘明、小林 さつき、坂本 龍彦、松本 孝之、植木 嘉衛

【目的】

PMMA 膜ダイアライザーは、生体適合性が良く、蛋白吸着特性を有し、掻痒感の改善に有効であると報告されている。しかし他の膜と比較して残血の問題が挙げられていた。今回、従来の PMMA 膜に挙げられる吸着の利点はそのままにし、より抗血栓性に優れている PMMA 膜 NF-H が開発された。そこで BG-PQ (以下 BG) を使用中の維持透析患者において、NF-H (以下 NF) へ変更し、残血、掻痒感の改善を検討した。

【対象・方法】

BG-PQ を使用中の安定期にある維持透析患者 17 名に対して、同一膜面積の NF-H へ変更し、目視による残血量や掻痒感 (VAS 法) の変化などを聴取した。

【結果】

掻痒感に関する VAS 平均値は変更前の BG が 5.3、NF へ変更後 1 ヶ月が 4.2 と有意差はなかった。また目視による残血評価に関する平均値は BG が 2.8、NF が 1.9 と NF が BG と比較し有意に改善を認めた。

【結語】

NF は BG と比較して掻痒感に有意差はなかったが、残血の改善には有効であった。今後も 3 ヶ月、6 ヶ月と観察を継続し、掻痒感に変化があるかどうか聴取する。